

たからざか



令和6年
9月発行

No.82

良質で高度な医療を提供し
住民に愛される病院を目指します。

大牟田市宝坂町2丁目19番地1
TEL 0944-53-1061

HP <https://www.ghp.omuta.fukuoka.jp/>



救急病棟



救急病棟はハイケアユニット（HCU：高度治療室）として、一般病棟とICU（集中治療室）の中間的な役割を担い、重症化や急変のリスクの高い患者さんや手術後の集中した管理が必要な患者さんを受け入れております。そのために、呼吸療法認定士や心不全療養指導士等の専門資格を持つ看護師をはじめ多職種協働で、安全で質の高い医療サービスの提供と高度な看護実践を目指し取り組んでおります。

救急病棟と聞くと、たくさんの管に繋がれ、ベッド上で全く身動きの取れない期間が長期間発生し、寝たきりになってしまうのではないかとご心配される方も多いかと思えます。私たちは、日々多職種で患者さんの病態や重症度に応じた早期離床、早期回復を目指しております。



【合同勉強会】

循環器内科の心臓カテーテル検査について、西6病棟、救急外来、救急病棟合同で勉強会を企画しました。



【呼吸器サポートチームラウンド】

呼吸器ケアを要する患者さんに対するケアの質と安全性の向上を図ることを目的に多職種で連携し活動しています。



心臓病治療の臨床研究



心臓血管内科 部長 さだ まつ 貞松 けん じ 研二

医学は日進月歩です。日々、適切な診断、治療を行うように励んでいます。その内容はわずか 20 年前と比べても大きく異なっています。この進歩を支えているのが、臨床研究です。臨床研究には世界レベルの大規模なものから、各病院で行うような小規模なものまで様々です。大きな変革をもたらすのは大規模研究ですが、それぞれの地域や病院の実情に合わせた研究も必要です。

我々も、当院単独から全国多施設共同研究まで、いくつかの臨床研究を行っていますので、一部を紹介いたします。

約 4 年前より、冠動脈疾患や心不全の検査である心臓カテーテル検査を、遠位橈骨動脈穿刺で行うようにしました。合併症が少なく優れた方法ですが、検査後の止血方法が統一化されていないため、当院の方法についてデータをまとめました。斬新なものではありませんが、米国で発行されている国際学術誌に掲載されることになりました。

冠動脈病変に対するカテーテル治療は開胸手術に比べて低侵襲ですが、病変が複雑な場合は合併症が多くなります。これを克服するため、これまで多くのテクニックが開発され、ジェイルドバルーンテクニックがその一つです。優れた方法ですが、少し煩雑なので、当院では少し簡便にして取り入れています。当院でのデータをまとめて、心血管インターベンション治療学会で発表しました。



7月25日から27日まで北海道札幌市で開催され、5500人が参加した学会です。3日目午前にポスター発表を行いました。全国から参加した先生方と活発な討議ができました。会期中に聴講したセッションではAIによる画像診断の臨床使用が報告され、地方病院にこそ有用性が高いと感じました。朝の気温が20度と過ごしやすい札幌でしたが、これからも情報発信するとともに最新の知見を診療に取り入れていきたいと思っております。



ポスター発表中の筆者



第一会場隣の札幌市時計台

失神について



循環器内科 部長 し はら 紫原 み わ こ 美和子

失神とは

一般的には意識を失って倒れることを「失神」と言いますが、医学的には、脳全体に十分な血液が供給されなくなったために一時的に意識を失うことを「失神」と呼んでいます。失神は、意識を失っている時間が比較的短く、多くは後遺症なく元に戻りますが、状況によっては下記のように危険な場合もあります。

- ・転倒してケガをしてしまう
 - ・入浴中に失神して溺れてしまう
 - ・車の運転中に失神して交通事故を起こしてしまう
 - ・突然死につながる心臓病が隠れている
- などがあります。

失神と似た症状や病気

代表的なものには次のような症状や病気があります。

- <め ま い> ぐるぐるまわるようなめまいは「回転性めまい」と呼ばれており、耳の病気のことが多いとされています。ふわふわ浮いているような「浮動性めまい」は脳の病気であることもあります。
- <てんかん発作> 痙攣を伴うことが多いとされています。
- <心因性発作> 心理的なストレスや不安によって意識を失うこともあります。
- <低血糖> 血糖値が異常に低くなると意識を失うことがあります。
- <低酸素発作> 酸素欠乏状態になると意識を失うことがあります。



失神の原因

失神の原因には大きく①神経の調節機能のバランスが崩れておこるもの

②起立性低血圧 ③心臓病が原因 ④その他 に分類されます。

① 神経の調節機能のバランスがくずれて起こる失神

いろいろな精神的・身体的ストレス（興奮、痛み、不安など）によるものや長時間立ったままの時や排尿・排便、激しいせき込み、くしゃみ時などの失神があります。失神の原因の中では最も多く、ケガをしなければ生命への影響は低いとされています。

この場合の予防法は、

- ・起こりそうになった（前兆があった）ときは横になる
 - ・長時間の立位、不眠、飲酒、脱水などの誘因を避ける
 - ・人込みや精神的ストレスがかかるような場所を避ける
 - ・弾性ストッキングを着用する
- などが効果的とされています。



② 起立性低血圧

立ち上がったときにおこる失神、いわゆる「立ちくらみ」です。高齢者や神経の病気、脱水が隠れていることが多いとされています。

この場合の予防法は、

- ・急激に立ち上がらない
- ・脱水、食べ過ぎ、飲酒などの誘因を避ける
- ・高温環境や熱い風呂を避ける
- ・弾性ストッキングを着用する
- ・上半身を高くして寝る（20-30cm程度）

などが効果的とされています。

③ 心臓病が原因

不整脈や弁膜症、心筋症、虚血性心疾患などの心臓病によっても失神が起こることがあります。生命への影響、危険が大きいため検査を受けることをおすすめします。

④ その他

脳血管の病気が原因のこともあります。

このように「失神」は原因が多岐にわたり、中には生命に関わることもありますので、「失神」した場合にはまずはかかりつけの医師に相談して、必要な場合は検査・治療を受けていただくことをおすすめします。

ACP (アドバンス・ケア・プランニング) 人生会議のご紹介

「ACP / 人生会議」とは、もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、家族や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取り組みのことです。

もし生きられる時間が限られていたとしたら、あなたにとって大切なことは何でしょうか？ 意思決定が難しくなった時に備え、受けたい医療やケアについて話合っておく事が大切です。

自分自身で前もって考え
想いを共有しましょう



当院の取り組み

2022年4月に医師、看護師、薬剤師、MSW、理学療法士、管理栄養士から構成されたプロジェクトチームが発足いたしました。

患者さんやご家族の思いを汲み取り、患者さんの望む医療やケアにつながる事を目標に意思決定支援を行います。「ACP / 人生会議」に関するご相談は、各外来、病棟スタッフおよび患者総合支援センターへおたずね下さい。



人生会議のロゴマーク
(厚生労働省 HP より)

